

平成 26 年 7 月 17 日

武蔵野学院大学大学院国際コミュニケーション研究科研究発表会：会場 武蔵野学院大学

私の博士論文～構成とその後～

武蔵野学院大学大学院国際コミュニケーション研究科長・教授 佐々木隆

・博士論文提出までのおもな経緯

昭和 59 年 3 月 駒澤大学大学院人文科学研究科英文学専攻修士課程修了

昭和 59 年 4 月 駒澤大学大学院人文科学研究科英文学専攻博士後期課程入学

* 修士課程での研究指導教授が昭和 59 年 4 月の入学式前日に入院、その後同年 8 月に逝去。

* 9 月の臨時の研究科委員会にて研究指導教授の変更。

昭和 62 年 3 月 駒澤大学大学院人文科学研究科英文学専攻博士後期課程単位取得後退学

平成 2 年 12 月 文部省大学設置審議会教員組織審査 武蔵野短期大学国際教養学科専任

講師 文学／英文学 判定「可」

平成 3 年 4 月 武蔵野短期大学国際教養学科専任講師着任

* 研究指導教授からの言葉

1) 専任教員の心得「校務」「教育」「研究」をバランスよく。何事も校務優先をすること。

2) 「行学一如」(駒澤大学の建学の精神)、「自重互敬」(学習院大学の建学の精神)をいつも忘れないこと。

3) 10 年後に博士論文を提出すること。

* 博士論文はゴールを決めないと内容等が散漫になることと、書誌的な内容を扱うため、区切りがつかないための設定。

* 研究指導教授の定年退職の時期等を勘案。

平成 10 年 4 月 武蔵野短期大学国際教養学科助教授

駒澤大学

研究指導教授 三好弘教授 日本人のこころを通してシェイクスピアを読んだ時、西洋人とどこか違うのか。仏教文化を通してシェイクスピアを読んだ時、キリスト教文化を通じた時と何が異なるのかを研究。三好教授の研究指導教授は本多顕彰教授で、本多顕彰教授は夏目漱石に師事。

研究指導教授 荒井良雄教授 坪内逍遙系の劇団に所属し、俳優、演出、翻訳を手掛ける経歴を持つ。イギリスに留学中に映画研究者の指導を受けて帰国。朗読によるシェイクスピア全作品を完結。

三神勲教授 俳優座の千田是也とコンビを組み、戦前戦後のシェイクスピア翻訳家としても活躍。

博士論文の目次（構成）

- ・博士論文の構想を平成2年4月に研究指導教授に提出し、博士論文の執筆を開始。
- ・博士論文を平成10年3月に研究指導教授に提出したところ、審査できる教員がいないため、さらに内容を充実させて来年もう一度提出する指示を受ける。後日談では学内に博士論文の主査及び副査の経験者がいなかったこと、研究科英文学専攻専任教員に博士の学位保有者がいなかったため、平成11年度より英文学会の会長の歴任者で博士論文の審査の経験のある東大退官教員の人事案件が平成10年の2月頃からすでに打診していた背景があった。同時に、論題の見直しと内容の組み換えの指導があった。論文全体のテーマが大き過ぎたことから、「書誌から見た」といったように視点を限定化した。論文の内容が自体すでに書誌を中心になっていたため。審査体制として正式提出の1年前の平成11年3月に研究指導教授に提出したところ、**赤色のところの項目を追加するように指導**を受け、全体のバランス調整や注釈番号等がずれることから、1年間をかけて修正し、平成12年3月に駒澤大学の教務部に提出。その後審査料や事務手続きがあり、正式に博士論文を受理し、審査を開始する連絡は平成12年5月に入ってからのこと。
- ・2部構成。第1部は受容史研究を先行文献等を整理し、これまでに殆ど取り上げられることのなかった文献等も時系列で紹介した。第2部は佐々木のオリジナリティの部分。特に「1 日本のシェイクスピアの研究と課題」「2 日本人としてのシェイクスピア」がその中心。

・おもな先行研究

坪内逍遙のシェイクスピアに関する著述

山口武美、市河三喜共編「日本シェイクスピア書誌」(『英語研究』第23巻12号至第24巻第10号、研究社、昭和6年～昭和7年)

竹村覚『日本英学発達史』(岩波書店、昭和8年9月)

山口武美編『日本沙翁書目集覧』(詩仙洞、昭和8年10月)

坪内逍遙『シェークスピア研究栞』(沙翁全集、早稲田大学出版部、昭和8年12月)

中央公論出版部編／坪内逍遙校閲『シェークスピア入門』(中央公論社、昭和9年2月)

Toyoda, Minoru. *Shakespeare in Japan*. (The Iwanami Shoten、昭和15年9月)

中野好夫代表『シェイクスピア研究』(新月社、昭和29年6月)

日本演劇学会編『シェイクスピア研究』(中央公論社、昭和31年9月)

荒井良雄『シェイクスピア劇上演論』(新樹社、昭和47年1月)

マンヴェル／荒井良雄訳『シェイクスピアと映画』(白水社、昭和49年4月)

佐々木隆『日本シェイクスピア総論』博士論文構想、平成2年4月

序論

第1部 日本におけるシェイクスピア受容史

第1章 移入期

第2章 明治期

(1) 紹介

(2) 翻訳

(3) 上演

(4) 研究

第3章 大正期

(1) 翻訳

(2) 上演

(3) 研究

第4章 昭和期（戦前）

(1) 翻訳

(2) 上演

(3) 研究

第5章 昭和期（戦後）

(1) 翻訳

(2) 上演

(3) 研究

第6章 平成期

(1) 翻訳

(2) 上演

(3) 研究

第2部 日本におけるシェイクスピア研究の課題

第7章 日本におけるシェイクスピア研究の課題

(1) 演劇研究

(2) 映像研究

(3) 受容研究

第8章 日本独特の観点のシェイクスピア研究

(1) 坪内逍遙

(2) 三好弘

(3) その他

第9章 日本の伝統芸能である歌舞伎・能狂言との関連性

(1) 歌舞伎

(2) 能

(3) 狂言

(4) その他

第10章 日本のシェイクスピアの海外への紹介

(1) 英文によるシェイクスピア研究

(2) 蜷川幸雄のシェイクスピア劇上演

結論

上記の構成に従って、年間2～5本程度の研究発表及び論文発表をすることになった。平成10年3月までにそれまでの内容をまとめて提出。その後は論題の見直しと内容の組み換えの指導があった。論文全体のテーマが大き過ぎたことから、「書誌から見た」といったように視点を限定化した。論文の内容が自体すでに書誌を中心になっていたため。

.....

平成12年3月に駒澤大学の教務部に提出

佐々木隆『書誌から見た日本シェイクスピア受容研究』博士論文、平成13年3月、309頁

赤色のところの項目を追加するように指導

序論

第1部 書誌からみたシェイクスピア受容史研究

- 1 江戸時代
- 2 明治時代
 - (1) 移入期
 - (2) 翻訳
 - (3) 詩とソネット
 - (4) 上演
 - (5) 研究
- 3 大正時代
 - (1) 翻訳
 - (2) 上演
 - (3) 研究
- 4 昭和戦前時代
 - (1) 翻訳
 - (2) 上演
 - (3) 研究
- 5 昭和戦後時代
 - (1) 翻訳
 - (2) 詩とソネット
 - (3) 上演
 - (4) 研究
- 6 現代のシェイクスピア
 - (1) 翻訳

(2) 上演

(3) 研究

第2部 日本のシェイクスピアの現状と展望

1 日本のシェイクスピアの研究と課題

(1) 演劇研究

(2) 映像研究

(3) 受容研究

2 日本人としてのシェイクスピア

(1) 日本独自のシェイクスピア劇上演

(2) 日本独自のシェイクスピア研究

3 シェイクスピアと国際化

(1) 英語とシェイクスピア

(2) 文明開化とシェイクスピア

(3) 戦後の国際社会への復帰

(4) 経済大国と国際文化交流

(5) 英文によるシェイクスピア研究

4 日本シェイクスピア書誌の問題点

(1) 海外文献の紹介

(2) 日本のシェイクスピア

(3) 豊田実の Shakespeare in Japan

(4) 日本シェイクスピア書誌の新しい展望

結論

注

参考文献

追加を求められた理由

1) 詩人としてのシェイクスピアの捉え方が不十分であったこと。また、明治期における新体詩の導入とシェイクスピアの重要な関係は深いため、特に明治期は項目を立てて必ず扱うこととなった。それまでは、翻訳の中で触れる程度の扱いであったが、章出ての中でははっきりと見えるようにしたこと。また、昭和戦後については特に谷川俊太郎の存在が外せないため、追加を求められた。特に、谷川俊太郎の場合には翻訳+朗読という考え方があり、現在でも上演のひとつとして「朗読シェイクスピア」というジャンルが確立しているが、研究面ではあまり進んでいない。

2) 「日本シェイクスピア書誌の問題点」の章立についてはもともとは「1 日本のシェイクスピアの研究と課題」の「(3) 受容研究」中で取り上げていたが、内容を分離して新しい章を立てインターネット時代を反映して「シェイクスピア書誌」という考え方から「シェイクスピア情報」という考え方を提唱し、今後の課題を残した。

オリジナリティの部分

- 1) 「書誌からみたシェイクスピア受容史研究」ではこれまで取り上げられていなかった新しい資料を紹介するとともにその意義について論じた。当時はまだOPACがなかったため、早稲田大学演劇博物館のカード検索と書庫検索、神田・早稲田等の古本屋街で探し出したもの。国立国会図書館には当時なかったもので、私家版等もふくまれていた。これまでの上演史をリサーチした結果、これまで一般に取り上げられることのなかった商業演劇ではないリージョナル・シアターや小劇場のものからシェイクスピア劇上演の新しい動きや演出における新しい手法を取り上げて、劇団の規模、劇場の規模から文化経済論的考察を加え、シェイクスピア・ブームの原因を論じた。これまであまり学術論文では取り上げることはなかった。
- 2) シェイクスピア劇上演、シェイクスピア映画を研究ジャンルとして認める内容とした。海外ではすでにこの分野が認知されていたが、日本の場合には、シェイクスピア専門学会自体でほとんど取り上げられることはなかった。佐々木が特に注目したのは、和泉流のシェイクスピア狂言、能シェイクスピア、黒澤明監督の映画の3本の映画『蜘蛛巣城』『悪い奴ほどよく眠る』『乱』。
- 3) はじめて資料として江戸末期から1998年程度までのシェイクスピア書誌が完成しており、出版済であった。

中心となる考え方

坪内逍遙「日本に沙翁劇を興さんとする理由」明治43年12月

「第一は今の劇壇の沈滞を救ふ一方便ともなうと思ふ。第二に沙翁は世界的の詩人であるから、之を日本に移し植ゑることは決して不可能でないのである。第三に沙翁劇を日本人の心で別途に解釈を試みるといふことは、世界文芸上の一つの貢献であると思ふ。第四に（これは少々早計的な臆測ではあるが）自分が此志を起したのは、今の外國の沙翁劇が（嘗て想像し豫期した程には）かたじけないもので無いらしいと感じ始めたからでもある。」

坪内逍遙「国訳沙翁劇の上演は可能か、不可能か？」昭和8年12月

「われわれはわれわれの立場から、われわれの解釈、われわれの趣味に依って、われわれみづからの為の演出を試みるがよい。日本人の立場から。これは（文芸協会当時からの）私自身のモットーである」

三好弘『シェイクスピアと日本人のこころ』公論社、昭和58年11月

「シェイクスピアを読んで考えると、日本人のこころで新しい意味を見透すことである」

これからの取り組み 博士論文の内容をさらに発展させて、『日本シェイクスピア論』
(平成 28 年～平成 32 年) に向けて現在取組中。ピンクはすでに発表及び出版済。

目 次

プロローグ

序 論

第 1 部 書誌から見たシェイクスピア受容史研究

第 1 章 江戸時代

(1) 交渉史・交流史・受容史

(2) 日英交流史

①ウィリアム・アダムズ

②フェートン号事件

③英語研究

④ラナルド・マクドナルド

⑤初期の英語辞典

(3) プロット類似作品

①近松門左衛門『釈迦如来誕生会』

②近松半二『妹背山婦女庭訓』

③四世鶴屋南北・二世桜田治助合作『心謎解糸糸』

④比較演劇という視点

(4) シェイクスピアへの言及紹介

①澁川六蔵

②『英文鑑』

③『英吉利紀略』

④『英国志』

⑤『海国図志』

⑥『英吉利新志』

(5) 中国におけるシェイクスピア

①宣教師の伝道事業

②阿片戦争

③林則徐の対外認識

④『四洲志』・『海国図志』

⑤中国のシェイクスピア研究の現状

⑥中国のシェイクスピア受容資料紹介

(6) シェイクスピア劇上演

①時代背景

②抜粋上演

(7) 課題と展望

- ①時代区分
- ②時代背景
- ③中国におけるシェイクスピア受容史との関連性

注

第2章 明治時代

(1) 移入期の設定

(2) 移入期

①高等教育とシェイクスピア

②外国人教師

[1] エドワード・ハワード・ハウス

[2] ジェームス・サマーズ

[3] ウィリアム・A・ホートン

[4] ラフカディオ・ハーン

[5] ジョン・ロレンス

[6] エドワード・ブラムウェル・クラーク

③『西国立志編』

④*The Nagasaki Express*

⑤*The Japan Punch*

⑥『葉武列土』と『葉武列土倭錦絵』

[1] 明治初期の新聞と「三条の教則」

[2] 『平仮名絵入新聞』と『東京絵入新聞』

[3] 仮名垣魯文

[4] 『葉武列土』

[5] 『葉武列土倭錦絵』

⑦「胸肉の奇訟」

⑧「新約繁昌記」

⑨『李王』稿本

(3) 翻訳・翻案

①『シェイクスピア物語』

②原文からの翻訳

③宇田川文海のシェイクスピア翻案物

[1] 受容史上の宇田川文海の紹介について

[2] 宇田川文海

[3] 「何桜彼桜銭世中」

[4] 「四つの緒」

[5] 「悪因縁」

[6] 「阪東武者」

[7] 「船戦」

[8]「悪縁」

④戸沢姑射・浅野馮虚『沙翁全集』

⑤坪内逍遙訳『沙翁傑作集』

(4) 詩とソネット

①新体詩

②詩の翻訳

③ソネットの受容

(5) 上演

①外国人によるシェイクスピア劇上演

②日本人におけるシェイクスピア劇初演

③シェイクスピアの日本化

④演劇改良運動

⑤文芸協会

⑥シェイクスピア劇を上演するとは

(6) 研究

①演劇史・文学史としてのシェイクスピア

②シェイクスピアの人物紹介・伝記

③シェイクスピアの作品紹介・梗概・作品研究

④上演研究

参考文献 テキスト 翻訳

注

第3章 大正時代

(1) 時代状況

①新しい女

②心理学

③教養主義

④近代劇運動

(2) 翻訳・翻案

①坪内逍遙訳『沙翁全集』

②『シェイクスピア物語』

③シェイクスピア・スピンオフ

[1]志賀直哉『クローディアス日記』

(3) 上演

(4) 研究

①シェイクスピアの伝記・作品研究

②比較研究

③海外の研究書の翻訳

④劇場研究

⑤シェイクスピア没後 300年(1916)

注

第4章 昭和戦前時代

(1) 時代状況

(2) 翻訳・翻案

①坪内逍遙『沙翁全集』

②三神勲

③中野好夫

④その他

(3) 上演

①新築地劇団

②前進座

③地球座

④日本俳優学校

⑤文学座

⑥俳優座

⑦女優

⑧日本女子大学シェイクスピア劇

(4) 研究

①日本シェイクスピア協会

②研究書

[1] 坪内逍遙『シェークスピア研究彙』(1928)

[2] 宮森麻太郎『近松とシェークスピア』(1929)

[3] 横山有策『シェイクスピア研究』(1931)

注

第5章 昭和戦後時代

(1) 時代状況

(2) 翻訳・翻案

①木下順二

②福田恆存

③大山俊一・大山敏子

④小田島雄志訳『シェイクスピア全集』

⑤多様化する翻訳

⑥

(3) 詩とソネット

(4) 上演

(5) 研究

注

第6章 現代のシェイクスピア

(1) 時代状況

(2) 翻訳・翻案

①松岡和子

②その他

③

(3) 上演

①劇場

②上演スタイル

(4) 研究

①第5回国際シェイクスピア学会とその後

②上演研究

③映像研究

④受容研究

⑤国際融合文化学会

(5) インターネットとシェイクスピア

注

第2部 日本のシェイクスピアの現状と展望

第7章 日本のシェイクスピア研究の課題

(1) 演劇研究

①海外のシェイクスピア劇上演と劇場研究

②日本のシェイクスピア劇上演論

(2) 映像研究

①シェイクスピア映像

②日本のシェイクスピア映像研究の状況：第5回国際シェイクスピア学会以前

③日本のシェイクスピア映像研究の状況：第5回国際シェイクスピア学会以後

④シェイクスピア辞典・事典類の「シェイクスピア映像」

(3) 受容研究

①個別作品受容研究

②日本におけるシェイクスピア受容研究

注

第8章 日本人としてのシェイクスピア

(1) 日本独自のシェイクスピア劇上演

①狂言

[1]片山博通『二人女房』

[2]三宅藤九郎『ぢゃぢゃ馬馴らし』・和泉元秀『ぢゃぢゃ馬ならし』

[3]高橋康也

[4]ダン・ケニー

[5]関根勝

[6]荒井良雄

②能

[1]鈴木忠志

[2]上田邦義

[3]栗田芳宏

[4]泉紀子

[5]足立禮子

③歌舞伎・人形浄瑠璃

④人形劇

[1]ひとみ座

[2]結城座

⑤日本舞踊

⑥講談・落語

⑦福田恆存『明智光秀』

⑧蜷川幸雄

[1]日本の伝統芸能の要素

[2]『NINAGAWA 十二夜』

[3]海外上演

⑨シェイクスピアと日本の伝統芸能の融合上演の課題

⑩シェイクスピアとローカリゼーション

[1]関西

[2]東北

[3]沖縄

[4]演劇の地域性

(2) 日本のシェイクスピア映像

①荒井良平監督『豪傑一代男』(1950)

②黒澤明監督の3本のシェイクスピア映画

[1]『蜘蛛巣城』(1957)

[2]『悪い奴ほどよく眠る』(1960)

[3]『乱』(1985)

③加藤泰監督『炎の城』(1960)

④TVドラマ『役者魂』(2006)

⑤シェイクスピアドラマスペシャル

[1]『王様の心臓～リア王より～』(2007)

[2] 『ロミオとジュリエット～すれちがい～』 (2007)

(3) 日本独自のシェイクスピア研究

- ① 『小説神髓』
- ② 演劇改良運動
- ③ 比較文学
- ④ 比較演劇学
- ⑤ シェイクスピアと近松門左衛門

[1] 「シェイクスピアと近松門左衛門」の比較

- (A) 塚越芳太郎『近松門左衛門』
- (B) 伊原青々園「近松と沙翁との同畢異文」
- (C) 坪内逍遙「近松門左衛門とシェイクスピア」比較研究
 - (a) 「近松対シェークスピア対イブセン」
 - (b) 「近松とシェークスピア」
 - (c) 「老近松を世界に紹介すべし」
- (D) 高安三郎『東西文学比較評論』
- (E) 小酒井光次「近松巢林子とシェイクスピア」
- (F) 宮森麻太郎『近松とシェークスピア』
- (G) 「シェイクスピアと近松門左衛門」の比較研究から比較演劇学へ

- ⑥ 木村鷹太郎
- ⑦ 西村孝治
- ⑧ 三好弘
- ⑨ 上田邦義
- ⑩ 滝静寿編『シェイクスピアと狂言』
- ⑪ 百瀬泉
- ⑫ 草薙太郎
- ⑬ 平辰彦
- ⑭ 川田基生

(4) 日本のシェイクスピア受容研究

(5) 「日本のシェイクスピア」とは何か

注

第9章 シェイクスピアとグローカリゼーション

- (1) 英語とシェイクスピア
- (2) 文明開化とシェイクスピア
- (3) 異文化理解としてのシェイクスピア
- (4) 戦後の国際社会への復帰
- (5) 経済大国と国際文化交流
- (6) 第5回国際シェイクスピア学会東京大会

- (7) 英文によるシェイクスピア研究
- (8) 世界のシェイクスピア
- (9) グローカリゼーション時代のシェイクスピア
 - ① グローバリゼーション時代の文学をどう考えるか
 - ② グローカリゼーションとは何か
 - ③ 「日本のシェイクスピア」をどう考えるか

注

第10章 日本シェイクスピア書誌の行方

- (1) 海外文献の紹介
- (2) 日本のシェイクスピア
- (3) Minoru Toyoda. *Shakespeare in Japan*
- (4) 日本シェイクスピア書誌の整備

注

第11章 シェイクスピアと英語教育

- (1) 大学と英語教育
 - ① 教養教育と英語
 - ② 教育の目的とは
 - ③ 大学で何を学ぶのか
 - ④ 教養教育とは何か
 - ⑤ 教養としての英語教育
 - ⑥ 「英語力」とは何か
 - ⑦ 大学における英語教育
- (2) 教材としての英米文学の行方
 - ① 教材研究
 - ② 教材の選択
 - ③ 教材研究の目的と授業での導入
 - ④ 教材研究の実践例
 - ⑤ 教材研究と教員の多忙化
- (3) シェイクスピア研究と英語教育
- (4) 大学の原語シェイクスピア劇上演
 - ① 日本のシェイクスピア劇上演史
 - ② 大学の原語シェイクスピア劇上演の概略
 - [1] 日本女子大学シェイクスピア劇原語上演
 - [2] 関東学院シェイクスピア英語劇
 - [3] 学習院大学シェイクスピア劇上演
 - [4] 同志社女子大学シェイクスピア・プロダクション
 - [5] 麗澤大学英语劇グループ
 - [6] 西南学院大学

[7]その他

(5) 朗読原語シェイクスピア

(6) 原語上演と英語教育

注

第12章 インターネット時代の日本シェイクスピア情報

(1) デジタルネイティブとデジタルイミгранト

(2) 日本シェイクスピア情報の行方

① 「情報」とはな何か

② 「情報文化」とは何か

③ 情報の電子化と書誌

④ 情報社会における「シェイクスピア情報」

⑤ 「日本シェイクスピア書誌」から「日本シェイクスピア情報」へ

⑥ 日本シェイクスピア情報の今後の展望

(3) シェイクスピア事典

① シェイクスピア事典の種類

② シェイクスピア事典の特徴

注

第3部 日本におけるシェイクスピア作品別受容史

第13章 『じゃじゃ馬ならし』

(1) 翻訳と翻案

(2) 狂言『じゃじゃ馬ならし』

(3) 『じゃじゃ馬ならし』上演の今後の展望

注

第14章 『冬物語』

(1) 上演

(2) 翻訳

(3) 研究

(4) まとめ

注

第15章 『テンペスト』

(1) 大正時代の『テンペスト』

(2) 昭和時代の『テンペスト』

(3) 翻訳

(4) 研究

(5) まとめ

注

第16章 『リチャード三世』

- (1) 翻訳と上演
- (2) 翻案・改作物
- (3) 研究
- (4) 上演

注

第17章 『マクベス』

- (1) 明治の受容状況
- (2) 翻案上演
- (3) 翻案上演と日本文化

注

第18章 『お気に召すまま』

第19章 『から騒ぎ』

第20章 『ハムレット』

第21章 『リア王』

第22章 『ロミオとジュリエット』

- (1) テーマ性
- (2) プロット類似作品について
- (3) 近松半二『妹背山婦女庭訓』(1771)
- (4) 四世鶴屋南北・二世桜田治助合作『心謎解色系』(1810)
- (5) 上演史
- (6) 翻訳と翻案
- (7) 社会背景
- (8) 研究

注

結論

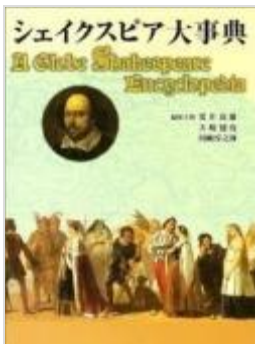
付録 Shakespeare Reception Studies in Japan: A Brief of Historical Survey

資料解題

- (1) シェイクスピア辞典・事典
- (2) シェイクスピア書誌
- (3) シェイクスピア劇上演年表
- (4) シェイクスピア受容研究
- (5) シェイクスピア翻訳
- (6) シェイクスピア名言集
- (7) 英文による日本のシェイクスピア
- (8) デジタル資料
- (9) ウェブ資料
- (10) 日本シェイクスピア受容史関連年表

エピローグ 私とシェイクスピア

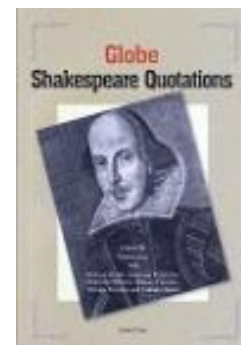
過去のおもな業績



日本図書センター、
平成 14 年 10 月



(エルピス、平成 17 年 3 月)



(朝日出版社、
平成 25 年 1 月)



(成美堂、平成
25 年 9 月)



(イーコン、
平成 25 年 10 月)



(イーコン、
平成 25 年 12 月)